

令和6年2月9日

第74回ベルリン国際映画祭に関連して文化庁が実施する取組について

文化庁は「令和5年度日本映画の海外発信事業」の一環として、第74回ベルリン国際映画祭において、日本映画の魅力発信や海外の映画関係者との交流促進・関係強化に資する取組を別紙のとおり予定していますのでお知らせします。

【別紙】第74回ベルリン国際映画祭に関連して文化庁が実施する取組について

【参考1】若手日本人監督海外プロモーションにおける派遣監督3名の決定

【参考2】在ドイツ日本国大使館主催（文化庁、経済産業省協力）「Japan Night」の開催概要

【参考3】ベルリン国際映画祭の概要

文化庁参事官（芸術文化担当）

参事官 圓入 由美

参事官補佐 吉井 淳

専門職 岩瀬 優

【代表】03-5253-4111（内2827）

第74回ベルリン国際映画祭に関連して文化庁が実施する取組について

文化庁は平成15年度から「日本映画の海外発信事業」として、海外映画祭における出展や海外映画祭への若手監督の派遣など日本映画の効果的な魅力発信につながる取組を実施しています。本事業の一環として、第74回ベルリン国際映画祭において、日本映画の魅力発信や海外の映画関係者との交流促進・関係強化に資する取組を下記のとおり予定しています。

令和5年度においては、新たに在ドイツ日本国大使館主催(文化庁、経済産業省協力)のレセプションでの取組(③)を実施予定です。

①併設見本市における「ジャパン・ブース」の出展

ベルリン国際映画祭併設見本市である「ヨーロッパ・フィルム・マーケット(EFM)」において、下記のとおり「ジャパン・ブース」を出展します。共有ブースとして9社(予定)の企業が参加します。日本映画の制作者や代理者による海外広報・営業活動の拠点として、広報活動や海外公開に向けた取組等を支援します。また、若手日本人映画監督海外プロモーション(②)の活動拠点としても活用します。

○ブース設置期間: 令和6(2024)年2月15日(木)～2月21日(水)の7日間

○会場: 映画祭併設見本市「ヨーロッパ・フィルム・マーケット(EFM)」メイン会場
マルティン・グロピウス・バウ

○ブース面積: 45 m²(出展者スペース/受付/イベントスペース/スタッフスペース/倉庫含)

○共有ブース使用企業: 9社(予定)

○過去のジャパン・ブースの様子



②若手日本人映画監督による海外向けプロモーションの実施

この数年国内外においてめざましい活躍をみせる若手日本人映画監督をベルリン国際映画祭及び併設見本市へ派遣します。本年度は、金子由里奈、工藤将亮、藤元明緒の3名の監督を派遣し、講義・ワークショップへの参加やスピードデーティングの実施等を通じ、監督自身の国際的な知名度の向上、業界関係者とのネットワークの構築等を支援します。

【参考1】若手日本人監督海外プロモーションにおける派遣監督3名の決定

③在ドイツ日本国大使館主催「Japan Night」への若手日本人映画監督参加による交流機会提供

ベルリン国際映画祭開催期間中に、在ドイツ日本国大使館で開催されるレセプション「Japan Night」に若手日本人映画監督3名が参加し、ベルリン国際映画祭の機会を利用した参加者等との人脈構築や交流機会を提供します。本レセプションは在ドイツ日本国大使館が主催し、文化庁、経済産業省が協力して開催します。

【参考2】在ドイツ日本国大使館主催(文化庁、経済産業省協力)「Japan Night」の開催概要

文化庁 令和五年度日本映画の海外発信事業
「ベルリン国際映画祭 若手日本人監督海外プロモーション」
派遣監督3名を決定

文化庁 令和五年度日本映画の海外発信事業「ベルリン国際映画祭 若手日本人監督海外プロモーション」において、ベルリン国際映画祭及び併設見本市へ派遣する映画監督3名が決定しました。

本事業は、この数年国内外においてめざましい活躍をみせる若手日本人映画監督を、世界三大映画祭のひとつであるベルリン国際映画祭および併設見本市「ヨーロッパ・フィルム・マーケット」へ派遣し、講義・ワークショップへの参加やスピードデーティングの実施等を通し、監督の国際的な知名度の向上、業界関係者とのネットワーク構築等を図るプログラムです。

本年度は、昨年、一昨年来を上回る、参加意欲の高い監督の方々からの応募が集まりました。選考を重ねた結果、金子由里奈監督、工藤将亮監督、藤元明緒監督が選ばれました。3名には第74回ベルリン国際映画祭及び併設見本市「ヨーロッパ・フィルム・マーケット2024」に現地参加し、視察、プロモーション活動を通し国際的な映画産業への見識を深め、今後の国内外での活動の糧としていただくとともに、後日この機会に得た学びを映画製作者へ共有していただく予定です。

本事業への応募条件は、令和2年以降に国内外の対象映画祭の長編部門に出品実績があり、劇場公開した長編監督作品が3本以内の日本人映画監督で、参加時にピッチする企画があることとしました。

■参加する映画監督 ※五十音順

金子由里奈監督



東京都出身。立命館大学映像学部在学中に映画制作を開始。山戸結希 企画・プロデュース『21世紀の女の子』（2018年）公募枠に約200名の中から選出され、伊藤沙莉を主演に迎えて『projection』を監督。また、自主映画『散歩する植物』（2019年）が PFF アワード 2019 に入選し、ドイツ・ニッポンコネクション、ソウル国際女性映画祭、香港フレッシュ・ウェーブ短編映画祭でも上映される。初長編作品『眠る虫』（2020年）は、MOOSIC LAB2019 においてグランプリに輝き、自主配給ながら各地での劇場公開を果たした。初商業作品『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』（2023年）は、大阪アジア映画祭、上海国際映画祭で上映されるほか、第15回 TAMA 映画賞最優秀新進監督賞を受賞した。

工藤将亮監督



京都府出身。森田芳光、石井岳龍、山崎貴、白石和彌ら現代の日本映画界を代表する名監督達のもとで、時代劇からSF、ファンタジーまで幅広いジャンルで研鑽を積む。初長編監督作『アイムクレイジー』が第22回富川国際ファンタスティック映画祭にてNETPAC賞(最優秀アジア映画賞)を受賞。コロナ禍でステイホーム出来ない若者を描いた長編2作品目『未曾有』(2021年)がタリンブラックナイト国際映画祭 Rebels with A Cause 部門で正式上映され、23年の富川国際ファンタスティック映画祭でも再び公式招待を受けている。長編3作品目『遠いところ』(2022年)が第56回カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭のメインコンペティション部門にノミネートされ、第2回東京フィルメックスではコンペティションに選出。観客賞を受賞した。

藤元明緒監督



大阪府生まれ。ビジュアルアーツ専門学校大阪で映画制作を学ぶ。在日ミャンマー人家族を描く初長編『僕の帰る場所』(2018年)が第30回東京国際映画祭アジアの未来部門 作品賞&国際交流基金アジアセンター特別賞を受賞。2021年、ベトナム人技能実習生を描く長編第二作『海辺の彼女たち(日本ベトナム国際共同製作)』を公開。同作品はPFF第3回「大島渚賞」、2021年度「新藤兼人賞」金賞、第13回TAMA映画賞最優秀新進監督賞、第31回日本映画批評家大賞・新人監督賞などを受賞。主にアジアを舞台に合作映画を制作し続けている。

■プログラム内容 派遣期間：2024/2/15-2/21(予定)

監督3名は、渡航前に事前講義を受講し欧米の映画祭マーケットの役割について学び、各自準備している新企画の pitching のアドバイスを受けます。派遣中は「ヨーロッパ・フィルム・マーケット」に文化庁が設ける「ジャパン・ブース」を活動拠点とし、講義、交流会、企画 pitching の機会を通じてプロデューサー、セールスエージェント、映画祭プログラマーなど業界プロフェッショナルとの関係構築を深めます。映画祭期間中に配布される業界紙への広告掲載も予定しています。

■本件のお問い合わせは下記「ジャパン・ブース事務局」までお願いします

【主催】文化庁

【事務局】公益財団法人ユニジャパン

【お問い合わせ】ユニジャパン ジャパン・ブース事務局

〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル 15 階 TEL : 03-6226-3022 E-mail : office@unijapan.org

在ドイツ日本国大使館主催(文化庁、経済産業省協力)「Japan Night」の開催概要

Japan Night

ベルリン国際映画祭の機会を利用し、日本映画のPRや国際的なネットワークの構築、ロケ誘致等を目的として在ドイツ日本国大使館で開催するレセプション。『PERFECT DAYS』のヴィム・ヴェンダース監督や公式出品作品の関係者等を招待するほか、文化庁「令和5年度日本映画の海外発信事業」の一環で派遣する若手日本人映画監督3名(金子由里奈監督、工藤将亮監督、藤元明緒監督)及び経済産業省「令和5年度コンテンツ海外展開促進事業(コンテンツ関連ビジネスマッチング事業)」の一環で派遣する若手日本人プロデューサー3名(古山知美プロデューサー、小出大樹プロデューサー、竹中香子プロデューサー)も参加(予定)し、関係者との交流等を図る。

■日時: 令和6(2024)年2月19日(月)18:00～21:00(受付開始17:30 最終入場20:30)

■場所: 在ドイツ日本国大使館 大使公邸

■主催: 在ドイツ日本国大使館

■協力: 文化庁、経済産業省

■問い合わせ先: 在ドイツ日本大使館 広報文化班 jpn-emb-press@bo.mofa.go.jp

ベルリン国際映画祭の概要

ベルリン国際映画祭

1951年にドイツの映画史家アルフレッド・バウアーをディレクターに迎えて以来、毎年2月にドイツのベルリンで開かれている国際映画製作者連盟(FIAPF)公認の国際映画祭で、カンヌ国際映画祭、ヴェネツィア国際映画祭に並ぶ世界三大映画祭の一つ。ドイツの首都ベルリンでの開催ということで、世界中の映画関係者が参加し、併設見本市「ヨーロッパ・フィルム・マーケット(EFM)」はヨーロッパに向けた発信や広報活動の場となっている。ベルリン国際映画祭における最高賞である金熊賞をこれまで受賞した日本人監督作品は以下のとおり。

(参考)

- ・昭和38年(1963年) 今井正監督『武士道残酷物語』
- ・平成14年(2002年) 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』

第74回ベルリン国際映画祭

○会期: 令和6(2024)年2月15日(木)～2月25日(日)

○公式出品作品(日本映画):

【ベルリナーレ・スペシャル部門】

石井岳龍監督『箱男』／黒沢清監督『Chime』／工藤梨穂監督『オーガスト・マイ・ヘヴン』

【フォーラム部門】

三宅唱監督『夜明けのすべて』／想田和弘監督『五香宮の猫』

【フォーラム・スペシャル部門】

朴壽南監督・朴麻衣監督『よみがえる声』

【ベルリナーレ・ショート部門】

泉原昭人監督『カワウソ』

【ベルリナーレ・クラシック部門】

本多猪四郎監督『ゴジラ』